

2018年度 人権NPO協働助成事業一覧

※下記の内容は申請書に基づき事務局が抜粋加工させていただいています。

※内容については、取組みが進む中で変更が生じることがあります。

一般財団法人 大阪府人権協会

団体名	特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN	特定非営利活動法人ウィークタイ	シングルマザーのつながるネットワーク まえむき IPPO	3 地区まちづくり合同会社 AKY インクルーシブコミュニティ研究所
重点	ユニークな啓発・広報活動	当事者のつながりづくり	ユニークな啓発・広報活動	持続可能な活動の仕組みづくり
企画名	幼児期から育む人権意識—子育て支援事業	「ひきこもり」当事者の多様な居場所・自助会展開事業	プレシングルマザーがまえむきに未来を見られるグッズづくりと支援者啓発事業	公営住宅に居住する高齢者を対象とした生活サポートシステムの構築
課題	生きづらさを抱える子どもたちが多い中、様々な対策がとられているものの、それらは概ね対処療法的であり、また子ども自身の回復には時間もかかるため、おとな側がなかなかそれにじっくり寄り添えない状況にある。	「ひきこもり」当事者の多くが、社会復帰後にも精神的に不安定な生活を送っている。また、「ひきこもり当事者」需要増に対する担い手が不足している。	離婚前や子どもを産むことになったこれからシングルマザーになろうという人たち（プレシングルマザー）は、さまざまな不安を抱えている。また、離婚や非婚をマイナスに捉え、自己評価も低くなっている。	大阪市内3地区が共通する大きな課題として、市営住宅に入居する単身高齢者があげられる。2011年に実施した実態調査によると市営住宅入居者のうち、単身高齢者を占める割合は各地区とも約3割と前年の国勢調査による大阪市の数字を大きく上回っている。また生活支援に関するニーズが高いこと、孤立した住民の存在が明らかとなっている。
目標	幼少期の子どもに身近なおとなたちが子どもの人権を意識するようになり、子どもが自分を大切な存在だと日々感じながら成長できる。また何より子育てするおとなが現在ある社会のさまざまな抑圧から解放され、子どもの視点に立って育ちを支えるという軸を持って子育てすることで、日々安心して人と関わり、つながりながら生活を送ることができるようになる。	「ひきこもり」当事者同士が「共感しあえる人的つながり」をつくることを目標としている。当事者同士がつながることによって社会参加や就労をした際の不安や孤独、苦しみ、生きづらさが耐えうるレベルのものへと低下し、再度の「ひきこもり」の予防となり、安定した社会生活の維持・継続につながる。	プレシングルマザーには、有意義な情報が伝わりにくいというジレンマが見え、それは各団体共通の悩みでもある。事業を通して、当事者や支援者は必要な情報を得ることができ、身近なサポートを知ることによって、前向きに考えることができる。また最新の知識と理解を共有し、ネットワークの強化につながる。	地域の若者と高齢者が共同で地域が必要としている事業を生み出していく過程で地域に共助の関係が再構築される。生活サポートシステムの構築により、高齢者が安心して暮らせる地域へ。地域の若者が事業参画することによる人材の育成。
内容	・当団体が開発した体験型講座を実施。講座実施後、参加者アンケートや声をもとにハンドブックを作成し、ホームページでも広く公開する。	①ひきこもり当事者らが集える居場所「だらだら集会」 ②生きづらさをおろす対話の時間「ピアサポート・ミーティング」 ③多様な居場所をつなげる「いろいろ集会」 ④担い手を育てる「講習イベント」	①内部ミーティングの実施 ②ネットワーク団体の学びのための学習会を開催 ③ネットワーク支援者交流会	①地域の若者が高齢者の困りごとを解決するイベントの開催 ・網戸の張り替えイベント ・大掃除イベント ②ワークショップの手法を活かした当事者参加型研究会の開催 ③他地域における先進事例の研究
協働	・広報 ・会議室の貸出	・様々な当事者活動や自助グループ活動との連携協力 ・広報 ・人権啓発イベントの協働	・情報発信 ・学習会の支援	・企画内容の相談 ・サポート